

日本一のブランド米をめざして

つや姫だより



穂肥特別号

令和 5年 7月 3日

庄内総合支庁農業技術普及課

中干しがうまくいくかどうかは作溝が決め手！ 茎数・葉色を確認し、穂肥は遅れず適量を！

1 6月30日の生育調査結果と対応

普及課作柄診断圃（鶴岡市上清水）の生育は、平年に比べて、草丈は長く、茎数はやや少なく、葉数の展開と葉色は並みとなっています。また作柄診断圃「はえぬき」（鶴岡市矢馳）の幼穂調査によると、出穂は平年並みからやや早いと予想されています（「はえぬき」平年の出穂期8月2日）。

現在広く中干しが行われていますが、降雨のため土壌がやわらかいまです。しっかり中干しができるように、作溝を切る・作溝の本数を増やす・手直しすることに努めましょう。

遅くとも穂肥適期（出穂30日前）までには中干しを完了させ、適期に穂肥をできる茎数・葉色に仕上げましょう。

表1 作柄診断圃の生育調査結果（6月30日 鶴岡市上清水）

	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉数(枚)	葉色(SPAD)
本年	52.8	509	9.4	37.5
平年	46.5	560	9.4	41.0
平年比差	114%	91%	0	-3.5
指標	45	540	9.3	40

注) 平年は過去5カ年平均、移植日は5月12日

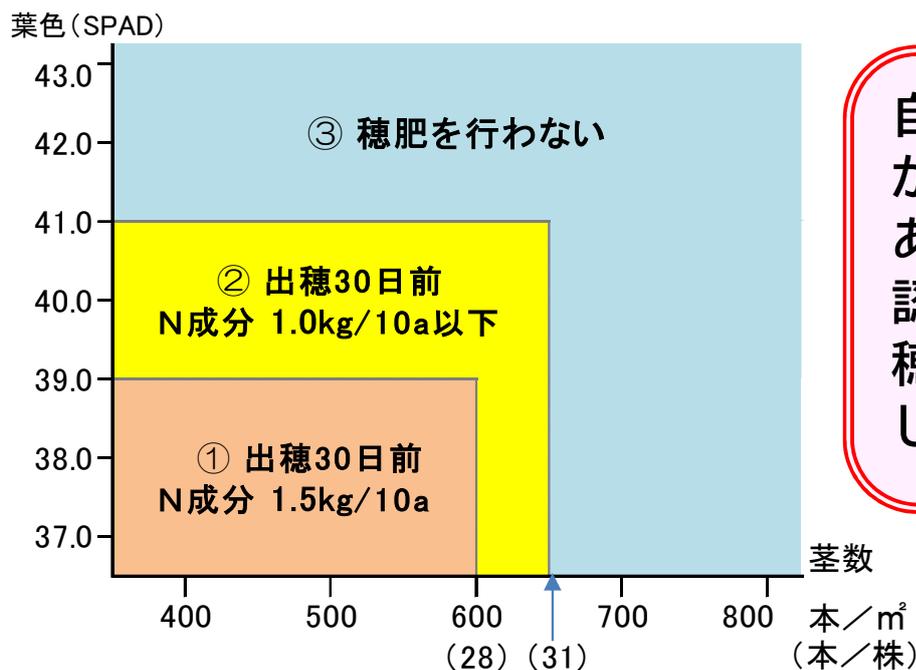
2 7月10日頃の生育診断と穂肥

- (1) 「つや姫」は品質・食味最優先の玄米粗タンパク質含有率を高めない穂肥が重要
- (2) 「つや姫」の穂肥は、**出穂30日前に窒素成分で1.5kg/10a**（表・裏図の①）が基本
- (3) 生育量（茎数）と葉色を正しく把握し、それに合わせて穂肥の施用量と時期を判断（下表参照）
- (4) 葉色が濃い圃場は、中干しを十分にいき、穂肥は慎重に

表2 7月10日（10葉期）の茎数・葉色と穂肥対応（株当たり本数は70株/坪の場合）

茎数・葉色（SPAD）	穂肥時期	穂肥窒素成分量
① 茎数600本/m ² 以下で、葉色39以下 （28本/株以下）	出穂30日前	1.5kg/10a
② 茎数600～650本/m ² 、または、葉色39～41 （28～31本/株）		1.0kg以下/10a
③ 茎数650本/m ² 以上、または、葉色41以上 （31本/株以上）	穂肥を行わない ※注	

※注：③の場合、出穂25日前まで待ち、確実に適正葉色まで低下した場合は、窒素成分1.0kg/10aを上限に施用する。出穂前25日以降は穂肥を行わない。



自分の「つや姫」
が左図のどこに
あてはまるか確
認して、適正に
穂肥を施用しま
しょう

図 7/10 (10 葉期) の穂肥対応 (株当たり本数は 70 株/坪 の場合)

参考：葉色板を使用する場合の換算値の目安 \Rightarrow (葉色板値 $\times 10 - 10$) = SPAD 値

例えば 葉色板の値 4.9 の場合 $\Rightarrow (4.9 \times 10) - 10 = 39 \Rightarrow$ SPAD 値

3 「スマートつや姫」の穂肥診断も参考にしてみましょう！

(※ 1) 本年の診断マップは 6 月 30 日に更新されました。

(※ 2) 茎数が極端に少なく葉色がかなり濃い圃場については、「緑」と表示される場合があるので、必ず実際の生育状況を確認してください。(例：欠株の多い圃場、ワキのため生育が抑制された圃場など)

4 中干し後～穂ばらみ期の水管理

中干し後は、走り水で足跡に水がたまる程度にした後、徐々に**間断かん水** (2 日湛水、2～3 日落水) にします。出穂期前後から穂揃期までは「花水」のため 2～5 cm の水深を保ちましょう。

熱中症予防と農作業事故防止のため、定期的に水分と休憩を取りましょう